

2022. 2. 13 (日) ガラテヤ1 : 1 ~ 5

1:1 人々から出たのではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって、使徒とされたパウロと、

1:2 私とともにいるすべての兄弟たちから、ガラテヤの諸教会へ。

1:3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたにありますように。

1:4 キリストは、今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださいました。私たちの父である神のみこころにしたがったのです。

1:5 この神に、栄光が世々限りなくありますように。アーメン。

<説教>

新約聖書のうち、使徒パウロによるものは全てが「～への手紙」という、「書簡」です。

それらすべての最初に、書き手・送り手であるパウロは自己紹介文を記しています。

そして、今朗読されたように、ガラテヤ人への手紙では、他のどの手紙の場合とも違う、いわば異例とも言える自己紹介をしています。(1:1)

ここでパウロは、自分が〈使徒〉—イエスの弟子として、イエスの復活の証人としてイエスから直接任命されて福音宣教のために派遣された者—であると言うだけでなく、その職務の権威の根拠・源がどこに「なく」、どこに「ある」のかを明らかにするのです。

それは、パウロが本当に使徒なのかどうかと疑い、「パウロは自分で勝手に自分は使徒だと言っているだけだ、だからパウロが教えていることは正しくない」と主張してパウロを攻撃する人たちが〈ガラテヤの諸教会〉の中にいたからです。

ですから〈ガラテヤの諸教会〉に対して、自分は〈人々から出たのではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって、使徒とされた〉のだとパウロは強調しなければならなかったのです。

〈人々から出たのではなく〉(直訳的には「人々の中からではなく」とは、自分という人間の意志、願い、考えなどによるのではないし、教会の中の人々の願いや期待によるのでもなく、教会外の世の人々の願いや期待によるのでもないということです。

また〈人間を通してでもなく〉(直訳的には「人々の間を通過してでもなく」とは、教会の中の権威ある人々から任命されたのではないし、教会外の世の権力であるローマ帝国の皇帝から任命されたのでもない、ということです。

自分が〈使徒とされた〉のは、〈イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって〉なのだとパウロは言います。

〈イエス・キリスト〉とは、使徒の働き 9 章によれば、〈なおも主の弟子たちを脅かして殺害しようと息巻き〉ダマスコに向かっていたパウロ(当時はサウロ)に直接現れて「サウロ、サウロ、なぜわたしを迫害するのか。」とお語りになったよみがえりの主イエス・キリストです。

同じく使徒の働き 22:21 には、「主は私に、『行きなさい。わたしはあなたを遠く異邦人に遣わす。』と言われました。」とパウロが証言したことが記されています。

その〈イエス・キリスト〉は、〈私たちの父である神のみこころにしたがっ〉て〈今の

悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださ)った
(4)お方です。

そしてパウロは〈父なる神〉も自分を使徒として召し任命して下さ)ったと言います。

〈父なる神〉は、御子〈イエス・キリスト〉が〈今の悪の時代から私たちを救い出すために、私たちの罪のためにご自分を与えてくださ)る〈みこころ〉(御意思)によって〈イエス・キリスト〉をこの世に遣わして下さ)ったお方なのです。

〈父なる神〉の〈みこころにしたがって〉十字架にかかり〈私たちの罪のために〉私たちが受けるべき罪の刑罰をすべて受けて死なれ、私たちの罪を贖って下さ)った〈イエス・キリスト〉を、〈父なる神〉は〈死者の中からよみがえらせた)のです。

そのお方が、神の教会を迫害して〈自分の背きと罪の中に死んでいた〉(エペソ 2:1)自分を御子イエス・キリストの故に赦して下さ)り、永遠のいのちを与えて下さ)り、人々に永遠のいのちを与える福音を宣べ伝える使徒にしてく下さ)ったとパウロは言うのです。

このようにしてパウロは、〈人々から出た)のではなく、人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神によって〉、罪を赦され、罪と死の支配から救われ、永遠の滅びから救われ、死んでも生きる永遠のいのちを与えられ、そのイエス・キリストのよみがえりの証人として、福音を宣べ伝える使徒に任命されたと証言するのです。

確かに復活の主イエスがサウロに直接現れて呼びかけて下さ)った後、同行の人々がサウロの手を引いてダマスコに連れていきましたし、ダマスコにいたアナニアという弟子に主がお命じになってサウロはバプテスマを受けるようになりました。(使徒9章)

しかしそうであっても、パウロはアナニアという人間によって救われて使徒として任命されたわけではありません。

断じてそうではなく、〈イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神〉が自分を救って下さ)り、使徒として召し、任命して下さ)ったのだとパウロは証言するのです。

アナニアにしても他の人々にしても、〈イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神〉がパウロのために彼らをお用いになったのです。

私たちに対する〈恵みと平安〉は〈私たちの父なる神と主イエス・キリストから〉のみ来るのであり(3)、絶対に〈人間〉—普通の人であれ権力者であれ—からは来ません。

私たちは〈使徒〉そのものではありませんが、やはり同じキリスト者として、キリストの証人として、神の〈栄光〉(5)をこの世で現すべく〈私たちの父なる神と主イエス・キリストから〉任命された者として、このことは心に留めるべき大事なことです。

もし私たちの救いやキリスト者としての生活が〈人々から出た)もの、〈人間を通して)のものだ)したら、私たちの救いも生活も人間次第ということになってしまいます。

キリスト者として周りの人から期待されたり褒められたりしているうちはよく励んで喜んで信仰生活を送ることができるかもしれません。

しかし、ひとたび信仰の故に人から喜ばれず、期待されなくなり、悪口を言われたり、嫌われたり、無視されたり、困難な状況になったりしたら、もう嫌になって信仰も神に使う生活もキリストを証しする生活も止めてしまうことでしょう。

しかし、使徒パウロは、私たちの信仰も、神に従いキリストを証しする信仰生活も〈イ

イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神〈を通して〉〈から出た〉と断固と証言します。

ですから、人々から褒められても褒められなくても、逆に悪口を言われても、期待されてもされなくても、無視されても、信仰（生活）を捨てることはできません。

たとえ誰か人の言葉によって福音を聞き、人の手によって洗礼を受けたとしても（そして実際そうなのですが）、それでも私たちの救い、罪の赦し、永遠のいのち、キリストを証しし、神の栄光を現す信仰生活への召し、任命は〈人間を通してでもなく、イエス・キリストと、キリストを死者の中からよみがえらせた父なる神〉から受けたのです。

私たちの主イエス・キリストを信じる信仰は、その意味で「聖なるもの」即ち「神のもの」であり、それゆえ神以外の何者も介入・干渉できない、させてはならないのです。